

2025 年 4 月 25 日

特別研修終了届兼報告書

学院長 殿

所 属	国際交流学部国際交流学科
職 位	教授
報告者	金 香男

私は、2024 年度大学教員特別研修員として学外研究に就いておりましたが、以下のとおり終了いたしました。

つきましては、「フェリス女学院大学教員特別研修制度に関する規程」（2000 年 5 月 22 日制定）第 11 条第 2 項の規定に基づき、研修成果に関する報告書を提出いたします。

1. 研修テーマ・研修先等

研修テーマ	東アジアの少子高齢化と外国人母子家庭に関する国際比較研究
研修先 (国・都市・研究機関等)	叔明女子大学アジア女性研究院（韓国・ソウル）
研修先指導者 (不在の場合は記入不要)	
研修先及び指導者 選定理由	アジア女性研究と多文化研究、多文化家庭の支援事業や社会統合プログラムの拠点大学で、専門研究者および関連資料を多数有しているため

2. 研修日程

日程	渡航先・滞在地	研究機関名	備考
9 月 1 日 ～ 11 月 30 日	韓国・ソウル	叔明女子大学アジア女性研究院	客員研究員として滞在
月 日 ～ 月 日			
月 日 ～ 月 日			
月 日 ～ 月 日			

3. 研修報告

(1) 実施概要：研修内容（具体的に記載）

本研修期間では「東アジアの少子高齢化と外国人母子家庭に関する国際比較研究」を研究テーマとし、①東アジアの少子高齢化に関する資料収集、②日韓における外国人母子家庭に関する資料収集とインタビュー調査を中心に研究を進めた。

4月から8月および12月から3月は国内研修で、上記のテーマについて資料収集し論文を執筆した。6月からは日本と韓国における外国人母子家庭を支援する団体への調査協力依頼を進めながら、当事者へのインタビュー調査を東京（8月）と大阪（12月）で実施するとともに、学会への出席と研究会の発表を通じて研究を深め、論文を執筆した。

9月から11月までは在外研修を実施した。韓国・叔明女子大学アジア女性研究院の客員研究員として所属し、韓国の少子高齢化や移民研究、多文化家族に関するシンポジウムと研究会への参加など、研究者や事務家との交流の場を得た。また、同研究院の会議に出席し日韓の家族やジェンダー、移民研究と社会統合プログラムに関して情報共有するなど、専門家から多くの協力が得られた。韓国滞在中は、外国人母子家庭の母親である当事者へのインタビュー調査、移民当事者からなる自助組織や支援団体への聞き取り調査および参与観察とボランティア活動にも積極的に参加し、外国人母子家庭の現状と課題について当事者と支援者の両方から声を聞くことができ、関連情報も収集できた。11月末には、日本を専攻する韓国の大学生を対象に日韓の家族とジェンダーをテーマに特別講演を行った。

研修中に①②ともに予定通り資料収集とインタビュー調査ができたことに加えて、②における新たな研究者ネットワークを構築することができた。

(2) 研修成果及び今後の進展の見込み

1年間の研修を通じて、東アジアとくに日韓の急速な超少子高齢化は、家族主義と福祉レジームが影響していることが明らかになった。世界で最も「出生率」が低い韓国、世界で最も「高齢化率」が高い日本であるが、両国の特徴は少子化と高齢化のスピードが非常に速く、世界のどの国も経験したことの無いレベルとなっている。両国は、労働力不足問題を解決するため移民受け入れに舵を切ったが、ケアの危機と再生産領域のグローバル化が進むなか、アジアでは国境を超えて移動する女性が増加し「国際移動の女性化」が顕著であることから、政策を策定し実施するうえで、ジェンダー視点が重要であることが分かった。

少子高齢化による生殖やケア労働といった人間の再生産領域に深く関わる国際移動は、家族に対する国の政策の影響が大きいことも明らかになった。移民の受け入れが「後進的」あるいは「非包摂型」といわれる日韓だが、日本に比べて韓国は多文化家族や外国人母子家庭を支える公的制度が整っており、社会統合政策としての支援も手厚く、また移民当事者からなる自助組織によるエンパワーメント支援が進んでいることが分かった。さらに、国内と韓国で実施したインタビュー調査からは、当事者ゆえの悩みや当事者にしか分かりにくい問題を抱えており、支援以前の段階で相談を受け止める場がないなど、新たな課題を把握することができた。

今後は、超少子高齢化時代における多文化家族と多文化共生を目指して、日韓の比較研究をさらに進めていく。その際、両国の移民政策や家族政策、福祉政策も含めて、結婚移民女性と外国人母子家庭の当事者へのインタビュー調査と自助組織や支援団体への聞き取りも実施していきたい。

4. 研修成果物

研修成果物(著書・学術論文・研究発表・演奏会等(予定も含む))の発表時期等

- ・著書(分担執筆):「変わりゆく韓国家族の姿」浅羽祐樹編『韓国とつながる』有斐閣、2024年12月刊行
- ・著書(分担執筆):「東アジアの少子高齢化と国際移動の女性化」『グローバル化のなかのアジア(仮)』明石書店、校正中